

(青森県)

地域の個性と強みを前面に 市民協働で目指す地域創生

80年ぶりに復活したシンボル・ 立佞武多

今年7月1日から8月28日までの約2カ月間、建物の一部が登録有形文化財に指定され、外国人観光客にも大人気の総合結婚式場・目黒雅叙園(東京都目黒区)にて、アートイルミネーション「和のあかり×百段階段展2016」が開催されている。同展には伝統的な和の明かりを活用した、日本を代表する祭礼のエッセンスや、有名作家のアート作品などが展示されている。そのうち全国から7つだけ選ばれた「明かりの祭礼」の1つが、五所川原立佞武多である。

五所川原立佞武多は高さが約23m(7階建てビルの高さにほぼ匹敵)と上方に伸びた巨大さが特徴だ。しかし、そのままの高さでは目黒雅叙園の天井に入らないため、約5分の1スケール、約4.5mのミニチュア版が展

示されている。

ご承知のように青森県を代表する夏祭り「ねぶた(ねぶた)」は、津軽地方を中心に、400年以上にわたり伝承されてきた。現在も県内40カ所以上の地区で、さまざまな形式と歴史を持つねぶた(ねぶた)祭りが実施されている。

最も有名で歴史が古く、共に国の重要無形民俗文化財の指定も受けているのが《2大ねぶた(ねぶた)》と称される、青森ねぶた(毎年8月2日～7日、観客動員200万人以上)と弘前ねぶた(8月1日～7日、観客動員160万人以上)だ。五所川原立佞武多もその巨大な姿が記録に登場するのは明治40年頃といわれており、毎年8月4日～8日に掛けて開催される祭り本番には、100万人以上もの観客が訪れる。2大ねぶた(ねぶた)に比べれば開催期間が短く、しかも同時期開催ということ考えると、これはかなりの健闘ぶりといえるだろう。最近では青森・弘前に五

所川原を加えて、3大ねぶた(ねぶた)と紹介するメディアもあるほどだ。

「五所川原立佞武多は明治時代に、地域の豪商や大地主の力の象徴として、競って高さを誇るようになり、20m以上の高さで迫力が大きな特徴になって人気を博した反面、その高さがキッカケで数奇な運命をたどってきた祭りです」

そう語るのは平山誠敏・五所川原市長だ。



ひらやまさとし
平山誠敏
五所川原市長



立佞武多祭りは8月だが「立佞武多の館」は通年展示

青森ヒバの木材産業などで急速に力をつけた、五所川原周辺の豪商や大地主たちが高さを競うようになった背景には、当時の五所川原の道路の幅が青森市や弘前市に比べると狭く、高さで特徴を出すようになった事情があるとする説もある。

ところが思わぬ障害が生じる。ご承知のように大正時代後半から昭和初期には、全国的に電化が進み、都市の空は急速に電線で覆われるようになっていく。五所川原も例外ではなかった。必然的に五所川原立佞武多は高さ制限をせざるを得なくなり、小型化していった。さらに第2次大戦が始まって祭りが自粛されるとともに、二度の大火などによって立佞武多の設計図が焼失。戦後の五所川原ねぶたは、小型化されたまま続けられていくことになる。



20m以上の立佞武多が巡るコースは電線地下埋設化済みの道路限定

状況が再び一変したのは平成5年だった。立佞武多の設計図の一部が偶然発見され、翌年に市民有志が高さ7mの立佞武多を再現。それをキッカケに市民団体「たちねぶた復元の会」（会長は会社経営者時代の平山市長）が結成され、平成7年には20m級の立佞武多が約80年ぶりに復活する。平成10年からは正式に「五所川原立佞武多」として祭りも再開し、現在に至っている。

「つまり来年（平成29年）で、五所川原のシンボルである立佞武多祭りは、復活20周年を迎えることになるわけです」（平山市長）

数奇な運命の立佞武多復活の一翼を、市民団体の代表として担った平山市長が市長に就任した経緯も、まさにドラマチックだった。



立佞武多の製作模様



ミニチュアの立佞武多は各地の観光イベントに引っ張りだこ（目黒雅叙園）

懸命に取り組んだ 自治体病院機能の再編問題

それまで地元・五所川原市で会社経営をしていた平山市長は、五所川原立佞武多が正式復活した翌年の平成11年、周囲に推されて青森県議会議員となる。そして任期2期目も半ばの平成17年3月には、五所川原市が1市1町1村(旧五所川原市、金木町、市浦村)による合併で新生・五所川原市が誕生する。

新生・五所川原市の初代市長には、旧五所川原市時代から市政を牽引してきた成田守氏が就任するのだが、新市スタートの翌平成18年5月、成田市長が病気のため辞任することになる。そこで急遽、周囲から五所川原市長選への出馬を求められた平山市長は県議会議員を辞任。新生・五所川原市スタート2年目の平成18年7月に、2代目市長に就任することになった。

「私にとつてはまさに、青森県産初の特A米の名前と同じで『青天の霹靂』^{へきれき}でした(笑)。心の準備も何もまったくないまま、あつという間に、市長職に就くことになったわけです(平山市長)

初めての市長選が前市長の病気辞任から2カ月後。実際問題、心の準備を整える時間はなかっただろう。

そのため「地元ではあつたけれど、五所川原市の財政状況についても予備知識はほとん



厄を払う虫送り行事(相内地区)

どありませんでした。いろいろ細かな問題はあるにせよ、全体的にはとりあえず順風満帆なのではないか。そう思っていたのですが、就任初年度はいきなり赤字決算でした」と、平山市長は苦笑する。

合併直後の赤字決算の背景には、さまざまな要因が絡んでいる。最大の要因として考えられるのが、国の地方財政制度の一大転換であった「三位一体改革」に伴う地方交付税の縮減だ。さらに当時五所川原市は一般会計の赤字問題に加え、もう一つの大きな問題を抱えていた。それが、五所川原市を中心とする西北五圏域(正式にはつがる西北五広域連合。五所川原市、つがる市、鱒ヶ沢町、深浦町、鶴田町、中泊町で構成)における、自治体病



岩木山をのぞむ五所川原ならではの田園地帯

院機能の再編問題だ。

西北五圏域は平成の大合併の前には14市町村で構成されていた。その当時から医療圏を形成し、介護関連をはじめとした福祉政策などにも広域で当たっていた。西北五圏域はピーク時の昭和30年代には約21万人の圏域人口を抱えていたが、現在は約13万人と大きく減少。昨年実施の国勢調査では5年前に比較し約1万2000人も減少していた。

「5年間で町1つ分の人口が減った」(平山市長) ことになるが、少子高齢化が年々進む状況下において、自治体病院機能の再編は焦眉の急だった。

「かつての14市町村が合併で2市4町の西北五圏域になったわけですが、この圏域には

五所川原市

市 政 ル ポ

(青森県)



金木地区は津軽三味線の発祥の地(津軽三味線会館・合同演奏)



厳冬期の名物・地吹雪体験ツアー

自治体病院が5つあり、ご多分にもれず、皆、経営が煮詰まると同時に医師確保に苦慮していました。これを機能別に合理化・再編するために、まず五所川原市にあって、当時から圏域の中核病院の役割を果たしていた五所川原市立西北中央病院を廃止し、西北五圏域の連合運営による新たな中核病院『つがる総合病院』を建設、それ以外の4つの病院を2つのサテライト病院、2つのサテライト診療所と位置付け、整備し直すというのが計画の概略であり、その事業規模は200億円にのぼる巨額なものでした(平山市長)

この計画を進めるためには、まずは五所川原市が行財政改革を進めながら財政の健全化を図ることが急務であり、同時に国や県の支

援を取り付けて再編の筋道をつけていくという高いハードルが課せられていた。

「そのため市民の皆さまや職員にはかなりの負担をお掛けすることにもなりましたが、人件費の削減をはじめ、財政再建のために懸命の努力を重ねながら、自治体病院機能の再編事業を粘り強く進め、過疎対策事業債の活用や、国の補助金の交付を受けることで、平成26年度の中核病院の開院にこぎつけるなど、再編事業を行うことができました(平山市長)

行財政改革はもちろんそれで終わりではなく、現在も多角的に進められている。だが「最大の懸案だった自治体病院機能の再編が成ったことで、五所川原市も圏域全体も落ち着きを取り戻すことができた。高齢化の進む状況

下では、やはり中核病院の存在感はいろいろな意味で大きい」と、平山市長は改めて述懐する。

共に支え合う開かれたまちづくり

合併後の財政再建に伴い、諸事、緊急用件以外の予算を切り詰めることで市政を運営してきた五所川原市。一方で地域のシンボルとして復活した立佞武多を市民協働で、総力を挙げて年々盛大なものに育てていくなど、合併後の一体感もまた年々強固なものになっていった。その過程で平成22年から始まり、市民の大きな反響を呼んだのが「市民提案型事業」の実施だった。

「合併特例債を財源にした基金をつくり、その利息分を事業予算に充てるという、苦しい状況の中から生まれた苦心の策(笑)」と平山市長は謙遜するが、この試みの中からはさまざまな「宝の原石」が生まれ、その後も健やかにいくまわつた。

市民提案型事業は地域課題を解決するとともに、市民団体などが実施しようとする公共性ある地域活動の支援を行政が行うことにより、地域活性化の実現および協働のまちづくりを目指す事業だ。

類似の制度は各地で実施されているが、五所川原市では「はじめの一步型・補助金限度額50万円(地域活動をこれから始めるグループ・団体向けコース)」「テーマ設定型・補助金限度額100万円(活動経験のある団体向



太宰治生誕祭は毎年6月19日に金木・芦野公園で開催

けコース」に分け、幅広い層が参加できるような工夫をしている点が特徴だ。

これまで数多くの提案が採択されてきたが、観光振興に大きな効果を挙げた「太宰ミュージアムストリートロード整備事業（平成22年～24年実施、NPOかなぎ元気倶楽部）」は、いかにも五所川原市らしい事業の一つだ。五所川原市では平成21年に「太宰治生誕百年祭」を実施。銅像の建立を行うなど、華々しいイベントを開催し、全国の太宰ファンの大きな注目を集めた。同事業はそれを契機に「太宰の故郷・五所川原（旧金木町）」を改めて発信するべく企図された。

金木地区には太宰治にちなんだ名称を持つストリート（斜陽館通り、メロス坂通りなど）がたくさんある。それらのストリートに、太宰の生涯のエピソードや、太宰作品の解説などを記入した読み歩きパネルを設置。観光客の理解の助けになるだけでなく、それぞれの解説に太宰および地域の歴史を学ぶことができ



太宰治の生家・斜陽館は太宰ファンの聖地

るような工夫が凝らされているため、地域の子どもたちや修学旅行生たちの教育プログラムにもなるのだ。

「その結果、北海道や首都圏の旅行社などからの問い合わせが増えるなど、観光振興の効果も生じています」（平山市長）

読み歩きパネルの設置は事業1年目・2年目に実施された。1年目にはこれも全国的な話題を呼び、現在も続く「太宰治検定」が開始されている。さらに3年目には太宰や旧金木町を知ってもらうための小冊子の制作、まち歩きツアーなどを実施した。その後、この事業が生み出した新たな地域資源は、各地の旅行社などが企画する「太宰治関連ツアー」にも多大な効果と影響を与え続けている。



走れメロスマラソンには家族連れから選手までが幅広く参加（毎年5月開催）

五所川原市における市民協働の標語「共に支え合う開かれたまちづくり」が結実化した、市民提案型事業の成果の典型といえる。

定住自立圏で目指す 魅力発信と定住化促進

五所川原市は昨年12月に開催された定例市議会において、西北五圏域の2市4町による定住自立圏構想の実現に向け、五所川原市が中心市となることを宣言した。

病院機能の再編で見たように、西北五圏域の絆は既に強く深い。同圏域の最大の課題は、ここ約50年間で約21万人から約13万人に大きく減少した定住人口の回復であり、減少

五所川原市

市 政 ル ポ

(青森県)

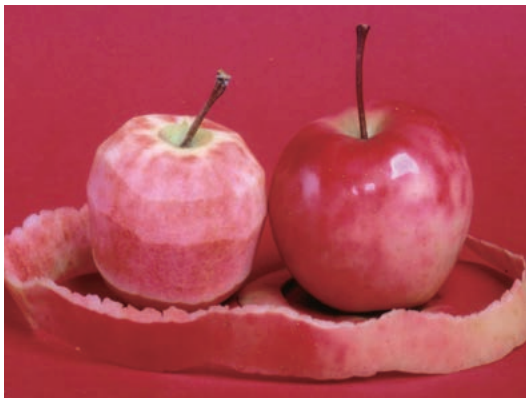
化の抑制だ。

五所川原市の減少率は5年間で約5・6%。ほかの1市4町の平均は10%を超えている。「いずれにしても名目だけの話ではなく、西北五圏域は運命共同体の關係にあります。人口減少の抑制も、そのための魅力発信も圏域全体の総力で行う必要があるのです」(平山市長)

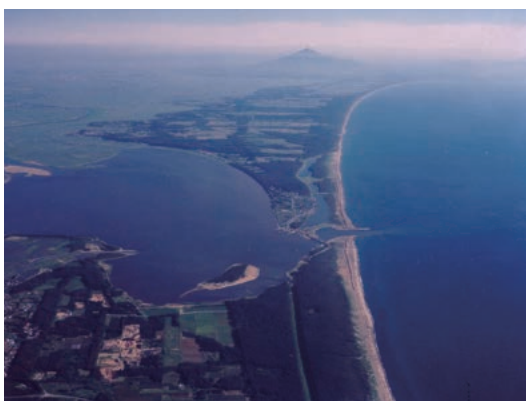
観光振興では前述の金木地区の事例のように、圏域の2市4町が独自に行う発信とともに、圏域全体の発信として「奥津軽」という名称をシンボリックに行っている。取材当日にはちょうど、五所川原の中心街や金木地区などで、伝統行事の虫送り行事がJ・Cや地域の人々の協働で行われていた。ねぶたや虫送りが象徴するように、圏域には共通した伝統文化に基づいて、しかも地域の個性が反映されている祭りや習俗が非常に多い。

それらは圏域としてのまとまった魅力を持っている。例えば圏域の重要な公共交通機関、「津鉄」の愛称で親しまれ、冬場にストーブ列車を走らせている津軽鉄道と海に最も近い線路として人気の五能線は、奥津軽の冬の厳しさと民俗的な豊饒さを自然な形で発信しており、今後の展開が注目される。

また五所川原市には、日本一のシジミとして知られる十三湖のヤマトシジミ、そして奥津軽のもう一つのシンボル



皮も果肉も赤い「赤〜いりんご」は商品化も活発



中世史のロマンあふれる十三湖の名産は日本一のシジミ(市浦地区)

であるリンゴなど、全国的に知られた地域資源も多い。「それらの地域資源は土地の名産品であるとともに、今後は定住化および新規就農を目指す人たちをも引き付ける、働く場を創出するための、貴重な資源にもなると確信しています」(平山市長)

基幹産業である農業には、新たな動きも出ている。平成8年にその名も「御所川原」の品種名で登録された皮も果肉も赤いリンゴが、「赤〜いりんご」の愛称で人気上昇中なのだ。「赤〜いりんご」は果肉の鮮やかな紅色が好評でジュースやジャム、ワイン、洋菓子などの商品化が図られ、徐々に販路を広げている。

厳しい行財政改革の一方で立佞武多をシンボル化し、市民提案型の活性化を積極的に図るなど「常に将来の夢を心のどこかに置いた施策」(平山市長)を大事にしてきた五所川原



咲き誇る桜の下を走る津軽鉄道

市のまちづくりの姿勢には、「常に渋みを糖度に転換」してきたような粘り腰の趣がある。皮も果肉も赤い新品種のリンゴの姿形は、まさにその象徴のように思える。

(取材・文 遠藤 隆 / 取材日 平成28年6月17日)